

令和 6 年度

教育委員会総合教育視察結果の集約

◇視察日時

令和 6 年 6 月 1 7 日（月）

令和 6 年 6 月 1 9 日（水）

◇視察目的

学校経営についてその管理運営や指導体制のあり方を確認する。加えて、児童生徒の学校生活の様子を把握する。

◇視察の観点

- ・学校経営（学校の特色、信頼される学校づくり、生徒指導体制、児童生徒の様子 等）
- ・防犯体制（児童生徒の安全管理、安全確保・不審者侵入時の危機管理 等）
- ・備品等の管理状況の確認（G I G A 端末保管状況、薬品庫 等）

◇視察報告の集約

1 小中学校

- 1) 学校経営全般
- 2) 防犯体制・施設・備品管理体制
- 3) その他

2 甲府商業高等学校・甲府商科専門学校

- 1) 学校経営全般
- 2) 防犯体制・施設・備品管理体制
- 3) その他

1 小中学校

1) 学校経営全般

- ・児童生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧に指導していた。電子黒板やタブレット端末を積極的に活用しながら、対話が活発になされ、児童生徒の学習意欲や興味関心を引き出す工夫が随所に見られた。机上に、端末、教科書、ノート、筆箱があるため、机が狭いよ

報告：第11号

うにも感じられたが、それぞれを使い分けて学んでいる様子うかがえた。

- ・ICT機器の特性を活かした効果的な指導がなされ、児童生徒もICT機器を積極的に活用していた。端末を家庭に持ち帰っての学習や「気持ちメーター」の活用についても取組を進めてほしい。
- ・「気持ちメーター」の運用が進み、それを活用した児童生徒の状況把握にも努めている。問題を未然に防止した事例も聞くので、効果的に活用してほしい。
- ・欠席者や教室に入れない生徒に対してオンライン配信による授業が行われている。双方向でコミュニケーションが取れる仕組みになっており、教室にいる生徒の声も聞こえるため、疎外感なく授業を受けることが出来る工夫がなされていた。
- ・「甲府スタイル」に沿った学習展開がみられた。「甲府スタイル」も提唱されて10年近くが経過し、多少のマナーとICTを活用した授業への対応に不十分な面もあるが、授業の基本中の基本に関わる場所なので、これからもしっかり運用して欲しい。
- ・生徒は、それぞれ発達段階に応じて、楽しく、真剣に学習に取り組んでいた。中には学習に集中できない生徒も見られたが、クラスの輪の中で活動していた。授業には様々な工夫があり、学習意欲を高めようとする努力を感じることができた。小学校での学習を踏まえた授業、気迫に満ちて生徒を引き付ける授業など、たいへん印象的であった。
- ・道徳も含めて教科担任制を導入している学校では、授業準備の短縮ができ、多くの教師の目で児童の様子を確認することができていた。メリットが多かったと感じた。
- ・担任＋サポートスタッフやボランティア、特支の先生が入るなどして、極力2人の指導者が教室にいる状態を作っていた学校があった。主として指導する教諭、個に応じる教諭と役割が分担され、児童に寄り添う丁寧な対応が行われていた。
- ・小規模校であることを利点とし、子どもに寄り添う学校づくりを大事にしていた。児童が安心して過ごす環境づくりには、地域の方の理解と協力が欠かせないが、地域の方と児童が自然とあいさつする関係性がある。学校が地域のコミュニティスペースになっていた。
- ・空き教室の清掃・整理整頓が行き届いていた。空き教室が多いことは寂しい雰囲気につながりがちだが、展示スペースを設けるなど、温かな雰囲気づくりがされていた。また、学校の様々な場所に花が飾られ、掲示物もよく整理されていた。一方で、広い校舎内を少ない教員で児童の安全に配慮しつつ管理することは大変であるだろうと感じた。
- ・文学館や美術館との博学連携や、支援学校との交流などが行われており、様々な機会をとらえ児童の成長につなげようとする学校の姿勢が感じられた。
- ・9年間を通じて児童生徒の成長を支援するため、学区内の小・中学校間で職員を派遣し合い情報共有をしている。連携強化の取組の成果も出てきていると伺った。
- ・特性を有する子、外国にルーツを持つ子、様々な課題を有する子と、多様な子どもたちが通学している。全職員体制で共通理解を図り、サポートしていることが伺えたが、教職員の欠員がある状況に厳しさを感じた。

報告：第11号

- ・職員構成の偏りがある。学級担任の多くが20代であり、ミドルリーダーが少なく、ミドルリーダーから若手への働きかけが苦しい状況にある。学校全体でフォローしながら、若手教員の指導にも力を入れていた。
- ・「ほっとルーム」については、学習をさせる場所ではなく、心を落ち着ける場所にしたかった（今後は個別ブースを増やしたいと考えている）。設置校での工夫や利用者の声を教育委員会に届けてほしい。一方で、通常学級にも支援が必要な生徒がいる。1クラスにつき複数教員で対応したいが、マンパワーが足りないため難しい状況である。
- ・期待が大きく、多くの要望に応えることが求められている。先生方への期待が大きい分仕事量が多くなったり、プレッシャーになったりするのではないかと感じた。
- ・教師の対応に個人差があったり、行き違いがあったりすると不信感を招きかねないので、様々な課題に対し、職員の共通理解はもとより、関係機関と連携したり、必ず複数の職員で対応したりするなどしてほしい。対応等順調な時にも油断することなく、これまで以上に丁寧な対応をお願いしたい。
- ・不登校傾向にある生徒に対して、各々の事情も状況も異なることを踏まえ、それぞれに寄り添うきめ細やかな指導が行われていた。登校はできるも教室に入れない生徒に対しては、玄関近くに別室を設け、慣れたところでさらにもう一つ別室を設けるなど、徐々に教室に入れる工夫がなされていた。心の問題を抱えるものや、相談ができずに家庭で抱え込んでしまう場合もある。ぜひ、丁寧な対応をお願いしたい。
- ・学校の特色である花づくり活動と吹奏楽活動は情操教育の柱となっており、児童は想像力・表現力を養う環境に恵まれている。中庭の紫陽花や玄関の一輪の薔薇から季節を感じることができた。地域との交流を深める活動として定着していることは大変素晴らしいが、一方でそれぞれの活動へ注力することの懸念もある。休日の花壇や中庭の水やり、吹奏楽の練習は先生方の負担となっていないか。また、音楽の指導者の確保についても持続可能かを考えさせられる。特色を活かし、時代に合った工夫を加えながら伝統を守っていただきたい。また、吹奏楽の朝練を考慮してか集団登校が導入されていない。一人登校が問題ではないが、災害時や事故対応など気になる側面もある。
- ・図書室に季節を表す折り紙や掲示物、読書意欲を促すポップ等が飾られており、児童の気づきを促す司書の先生の工夫が随所に感じられた。また、図書室内に畳のある学校もあり、図書室が楽しく、憩いの場となるよう各校で工夫していることが感じられた。
- ・警察や消防と連携する中で防災訓練を実施したり、避難訓練の方法を考えたりと、各校の工夫が見られた。日頃の訓練が生かされ、地震が発生した際、状況に応じた良い対応が確認できたと報告もあった。
- ・食生活改善推進委員の方にCSに入ってもらい、ほうとう作りなどの活動を行う学校があった。また、地域との連携が意識されており、田植えの際に協力を得たり、職業講話を行ってもらったりしていた。登下校の安全確保に、見守りボランティアの活躍がある。
- ・PTA組織の改編を行い専門部を削減するなど、実態に合わせた持続可能なPTA活動を

報告：第11号

目指す学校があった。

2) 防犯体制・施設・備品管理体制

- ・死角となっている個所や不法侵入を防ぐ具体案（オートロック等）の必要性和、放課後や土曜日（放課後子供クラブ）を含めた安全管理の徹底が望まれる。
- ・GIGA端末や刃物・薬品等の管理について、児童生徒の安全確保に留意し管理をお願いしたい。学校の備品は多く、管理すべき範囲も広いが、意識して心掛けてもらいたい。
- ・登下校の指導が行われているので大丈夫かとも思うが、家庭訪問がない場合、地域の状況を十分に把握できているか気になるところである。交通事故、不審者の出没、生徒の問題行動等に対応して、迅速にその発生場所に行けるようにして欲しいと感じた。
- ・通学路の問題に関して、自治会など地域を含めた対策が必要な場合があると感じた。
- ・学校内事故について、AEDでの処置、救急通報、保護者への連絡など、迅速・的確な対応が図られるよう危機管理に留意願います。
- ・ユニバーサルデザインを考慮して教室環境が整えられていたが、年度当初の計画のみにとらわれず、児童の実態に応じて、柔軟に対応して欲しい。また、教室前面のみならず側壁や後ろなどについても研究して欲しい。
- ・自転車通学の安全確保は、教員の努力、生徒への安全指導だけでは難しく、地域（通勤時に通学路を通行する車）の理解が必要である。警察と協力したり、地域の方に理解していただいたりすることが必要であり、市教委・県教委にも相談していただきたい。また、事故防止には、交通ルールの遵守と譲り合い等の意識を持つことが大切である。利用者だけでなく全校生徒を対象とし、定期的な安全教室の実施が望まれる。
- ・SNSに絡んだ犯罪防止のため、ネットの扱いについて講習等を通じて、繰り返し伝えていくことが望まれる。
- ・監視カメラが設置されているが、設置を進めたり、管理を徹底したりして欲しい。
- ・電話が2回線しかないので、電話がつながりにくい状況になる場合があると伺った。

3) その他

- ・ことばの教室の役割は大きく、中学進学により周囲との隔たりを感じる生徒が、同じように吃音を持つ生徒とのかかわりによって、気持ちを落ち着け自信を取り戻している。一方で、そういった現状はインクルーシブな教育がまだ十分ではない証拠ともいえる。
- ・様々な国にルーツを持つ児童については、日本語だけでなく日本特有のマナーや礼儀作法など、文化につながる事柄を身に付けることも将来的に大切である。
- ・社会が多様性を受け入れ、個を尊重する方向に進んでいるが、学校は集団の力を養う場としての役割も担っている。家族、地域では得られない学級での学びの意味を考えていきたい。
- ・学校は地域になくてはならないものとして機能している。今後も地域の核として存在し

報告：第11号

続けていってほしい。

- ・働き方改革については、何よりも管理職のやる気と本気度にかかっており、具体的な成果をあげていただきたい。
- ・児童会のきまりなど、児童に関わることは児童の声を聞き尊重するようにしてもらいたい。採用されない場合は、その理由を説明願います。
- ・学校内だけでなく、地域連携の中で避難実践力をつけることが望まれる。

2 甲府商業高等学校・甲府商科専門学校

1) 学校経営全般

- ・高度な専門性の確保を使命としており、新しいカリキュラムを導入している。少人数でのプログラムや高度な資格に対応するプログラムなどが展開されていた。実践的操作を交えての授業が多く、ここだからこそ「できる」の強みを感じた。
- ・資格取得に向けて、学校全体でフォローしており、少人数指導や具体的な操作を交え、スキルアップを目指していた。
- ・グループでの話し合いが様々なクラスで行われており、単に知識を蓄えるのではなく、コミュニケーションを通した深い学びを目指していることが伝わってきた。
- ・初期のうちからキャリア教育を実施したり、時事問題や探究英語などの選択科目を設けたりするなど、多様な人材を生み出そうとの工夫が見られた。探求を主体的で深い学びとするには、1年生で問いを立て、2年生と3年生で探求するよう時間をかけることも考えられると感じた。
- ・卒業生の7割が進学することから、これに合わせてカリキュラムも見直す必要がある。マーケティングや観光ビジネスといった高度な科目も行われている。また、進学者の増加に伴い、進路指導を入学時から行うなど、現状に応じた工夫がみられた。
- ・就職支援員を配置し、就活強化プログラムを実施している。
- ・難関資格に挑戦したり、明確な目標を持っていたりする学生はともかく、何らかの事情で目標を見失い、モチベーションが低下してしまう学生もいると思う。そうした学生に対して、少人数指導、個別対応などを生かして指導に当たってほしい。
- ・地域経済の課題を専門家と共に研究していくプログラムでは、地域の産業(企業)の特性の分析に留まらず、より発展していくための提案が行われており、学生たちの充実した学習ぶりを感じることができる。ブレインストーミングや、様々な状況分析の手法を学ぶことができ、そうした経験が今後に生きると思われる。
- ・部活の練習方法を生徒が考えるなど、先生方が生徒の主体性を重んじていた。
- ・生徒指導等の生徒に関わることについては、生徒の意見を聞き尊重していただきたい。

報告：第11号

2) 防犯体制・施設・備品管理体制

- ・照明のLED化や空調機器の改修に関して、要望があった。
- ・県内の広範な地域から生徒が通っているため、地震時の帰宅困難者への対応のため、4月に全生徒の帰宅方法を調査が行われるなど、安全面への配慮が感じられた
- ・学校内事故については、AED処置、救急通報、保護者への連絡等が迅速、的確に対応するよう危機管理に留意願いたい。

3) その他

- ・難関資格を取得する学生が毎年輩出されたり、学生が県内企業に100パーセント就職したりと、学校設置の狙いを達成するとともに、社会的役割を十二分に果たされていることに敬意を表したい。
- ・学生募集に関して、各種学校への出張授業、体験学習の場の設定などの取組を進めるなど、学校の知名度を上げる努力に感謝したい。また、県内高等学校のみならず、本県と隣接する地域の高等学校とも連携を深めるなど、広い視点から対応を進められていることは大変重要な取組であると感じた。
- ・「なりたい自分に 必要なものがここにある」をキャッチフレーズとして掲げ、生徒の多様な進路希望に応えられる学校として訴えることとしている。唯一の単科商業高校を強みとし、県内の広範な地域から生徒の受け入れを行うなど努めていた。
- ・少子化が進行する中で、生徒に認められ入学してもらうためには、本校ならではの生徒に訴えるものが必要だと思う。
- ・来るべきAI時代を見据えて、AIに関連した授業について充実を望みたい。特に、本校にしかできないといった取組を考えていただけるとありがたいと思う。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査

甲府市における調査結果のポイント

・・・・・・・・ も く じ ・・・・・・・・

1	調査の本市の概要	・・・・・・・・	P 1
2	教科に関する調査の本市の結果について	・・・・・・・・	P 2
3	質問調査の本市の結果について	・・・・・・・・	P 1 4
4	資料 1	・・・・・・・・	P 3 0
5	資料 2	・・・・・・・・	P 3 5

甲府市教育委員会 学校教育課

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年、中学校第3学年

○調査内容

〔教科に関する調査〕

小学校・・・国語、算数 中学校・・・国語、数学

◇出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

〔生活習慣や学習環境等に関する質問調査〕

◇児童・生徒質問調査(小・中学校)

- ・調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

◇学校質問調査(小・中学校)

- ・学校を対象とした、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 参加状況

校 種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校	6年生・1220人
中学校	11校	3年生・1170人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況 : 全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)		中学校(3年生)	
		国語	算数	国語	数学
全 国		67.7	63.4	58.1	52.5
山梨県		68	62	58	51
甲府市	国との比較	△	△	△	△
	県との比較	△	○	○	○

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科(国語・算数・数学)において全国を下回ったが、全国と比べて－0.7%から－0.1%の範囲内(昨年度－0.6%から＋1.2%)にある。

〔小学校〕

- ・すべての教科(国語・算数)において、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率は、算数では上回っている。

〔中学校〕

- ・すべての教科(国語・数学)において、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率との比較では、すべての教科(国語・数学)で同じかあるいは上回った。

(2) 各教科の結果

■ 小学校国語

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2ー(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	5、6年 書くこと エ	

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5、6年 言葉の特徴や使い方に関する事項 エ	H20A 1 二(1)
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3、4年 言葉の特徴や使い方に関する事項 カ	R3 3 三(2)イ
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	5、6年 読むこと エ	R4 2 二 R4 2 三

【正答率が40%に満たないもの】

○該当なし

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率については、全国及び県を下回る結果だった。
- 全国より無解答率の高い設問数が昨年度と比較し半減した。（5/14問）
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」（知識及び技能）に関する設問の正答率が低かった。
 - ・「競技」を漢字で書く設問は、全国の正答率は上回ったが県を下回り、低い正答率だった。また、

「投（げる）」を漢字で書く設問については、全国・県平均を大きく下回った。「文の中で正しく漢字を使う」ことについては依然として本市の大きな課題である。

- ・文の中における主語と述語との関係を問う設問についても、全国・県平均を下回った。特に、述語の近くにある修飾語と誤る解答類型の反応率が高かった。主語・述語（修飾語・被修飾語）といった言葉の関係の理解についても依然課題が残った。

- 文学的文章において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる「読むこと」（思考力、判断力、表現力等）に関する記述式の設問の正答率が県・全国の正答率を下回った。
- 全国や県と同様な傾向ではあるものの「話すこと・聞くこと」や「書くこと」（思考力、判断力、表現力等）に関する設問の正答率が低い傾向であった。
 - ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問（「話すこと・聞くこと」）
 - ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問（「書くこと」）

【改善のための方策】

○漢字を文の中で正しく使う指導の充実

- ・漢字の指導に当たっては、読み方や字形に注意しながら、文の中で正しく使う機会を低学年から意図的・計画的に設定し、家庭学習とつなげながら、繰り返し粘り強く指導することが大切である。日ごろから漢字の学習と実生活とを結びつけ、漢字に対する興味関心や漢字を使おうとする態度をはぐくむ働きかけが必要である。

○文の中における主語と述語との関係を捉える指導の充実

- ・主語と述語（修飾と被修飾）との関係を意識して文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くことができるようにすることが大切である。
- ・日ごろから対話や文章の読み書きの中で、主語（述語、修飾語）が何かを意識させることを、低学年から繰り返し指導することが重要である。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々あることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意することが必要である。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「構造と内容の把握」や「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などと関連させて指導することが効果的である。自分が書いた文章を読み返す際に、読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けるようにしていくことが重要である。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導の充実

- ・心に残ったところとその理由を交流することにより、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにすることが大切である。
- ・文学的な文章を読む学習においては、文章を読む観点を焦点化することも考えられるが、児童がそれぞれの読み方で読むことができるよう、配慮することも必要である。その際、友達が着目したところと、自分が着目したところを比べることを通して、児童自身が「人物像」や「物語の全体像」、「表現の効果」のどの観点で読んだのかを明確にしていけることができるようにすることが大切である。

- ・心に残ったところとその理由を書くことが難しい児童には、教師や複数の児童で言葉の意味や様子を確認しながら、場面によって登場人物の行動や会話がどのように変化したかといったことを一緒に読んでいくことも必要である。また、心に残ったところは書けるが、その理由を書くことが難しい児童に対しては、「なぜかという」とや「～からです」など、思考に関わる語句を例示することが考えられる。さらに、物語の全体像をつかむことができても、根拠となる叙述を明確にすることが難しい児童に対しては、「～のところから」など、根拠を表す語句を例示することが考えられる。「知識および技能」の(1)「ことばの特徴や使い方に関する事項」と関連させて、自分の考えを適切に表現することができるように指導すると効果的である。

○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。
- ・音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などには、資料を使いながら話すことや、聞き手の興味関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが必要である。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的である。

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

- ・文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げること考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。そのためには、取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えの関係を明確にできるようにする必要がある。その際、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかや、文末表現に注目して事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確認したりする場面を設定することが大切である。
- ・事実あるいは考えのどちらかが不足している児童には、伝えたいことを児童同士で交流しながら、それを支える事実としてふさわしいものを取り上げられているか確認したり、事実を裏付けとすることで、どのような考えを伝えたいのかを確認したりすることができるよう、書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定することも効果的である。
- ・事実と考えを区別して書くことができていない児童には、主語や文末表現を意識して文章を見直すよう促すなど、教師が個別に指導することが必要である。

■ 小学校算数

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3年 数と計算	H19B 2 H26B 1 (2) H30B 4 (1)
2 (2)	除数が $1 \div 10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5年 数と計算	H20A 3 H28A 1 (1) H30A 1 (1)
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5年 図形	H20A 7 H25A 7 (2) H30A 7 (1) R2 2 (3)

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年 変化と関係	R3 1 (2) R3 1 (3) R3 1 (5)
4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	5年 変化と関係	R3 1 (2) R3 1 (3) R3 1 (5) R4 2 (3)
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか	2年 数と計算 3年 データの活用	H23B 1 (1)

		を判断できるかどうかをみる		
--	--	---------------	--	--

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さ、立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3年、5年 図形	H21B 1 (3) H24B 5 (1) H28B 3 (3)
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年 変化と関係	R3 1 (2) R3 1 (3) R3 1 (5)

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、全国及び県と同様に、無解答率が高い設問もある。
- 「数と計算」の領域では、全体的に全国及び県と同等、もしくは上回る結果となった。特に数量の関係を□を用いて式に表すことはよくできていた。反面、問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題では、単純に「少ない」という言葉から減法を選択する児童も多く、課題があった。また、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題でも、解答の方法を、筋道を立てて説明することに課題がある。
- 「変化と関係」の領域では、他の領域に比べて正答率が低かった。特に全国及び県と同様に、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述することに課題がある。また、速さの意味を理解しているかを問う問題でも、速さ同士をたす誤答が目立ち、課題がある。
- 「データの活用」の領域では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることはよくできていた。反面、必要な数値を読み取り、条件に当てはめることや、立式したり判断したりすることには課題があった。無解答率も高い結果となっている。
- 「図形」の領域では、直方体の見取図について理解し、書くことができるかをみる問題は、よくできていた。反面、球の直径の長さ、立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことには課題があった。立方体の体積を求める時に円周率(3.14)をかけてしまう等、考え方が混同している誤答が目立ち、全国と比べても低い正答率となった。

【改善のための方策】

○「数と計算」に関する指導の充実

- ・問題を読み、「少ない」という言葉から減法を選択するような、形式的な立式ではなく、日頃から、問題場面を図に表し、数量の関係をしっかり捉えて立式するように指導することが大切である。
- ・計算の習熟を図り、確実性を高めるとともに、計算に関して成り立つ性質を活用することで、計算が能率的になる体験を取り入れ、その良さに気づかせることが大切である。また、答えの求め方について、筋道をたてて他者に説明したり、ノートにまとめたりする活動を取り入れることも考えられる。

○「変化と関係」に関する指導の充実

- ・場面や目的に応じて、速さの比べ方を考察させるとともに、何に着目（一定の長とかかる時間等）して比べたのかを説明したり、整理したりする時間を取り入れることが大切である。
- ・「速さ」の理解を深めるためには、2つの数量（道のり、時間）の関係を表に表し、「速さ」が変わらない時は、2つの数量は比例関係にあることを確認するとともに、「速さ」が単位量あたりの大きさを表す値であることも理解することが大切である。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・日常生活の場面やデータをグラフに表し、グラフの特徴や傾向を捉え、条件等も確認しながら必要な情報を読み見取るとともに、そのことを整理してまとめる活動を取り入れることが大切である。
- ・身近に目を向けさせ、日常生活の問題を解決するための問題場面を設定し、児童が興味をもって必要なデータを活用して処理したり、その過程を式等に表したりする活動を取り入れることが大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・具体物の操作や観察などをおして「球の直径」や「立方体の一辺」など、図形を構成する要素に対する理解を深めることが大切である。
- ・求積の公式やその意味についてふり返るとともに、図形を構成する要素や位置関係から体積の求め方や図形の性質について考察する活動を取り入れることが大切である。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (一)	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	1エ 話すこと・聞くこと	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

・該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (一)	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	2ウ 読むこと	H25 中 B 1 二

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国を僅かに下回った設問が多かった。また、各領域では「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国を上回ったが、「書くこと」は全国を下回った。記述問題については、昨年度は全国を上回っていたが、本年度は下回った。
- 漢字「満（ち）足（りた）」を書く設問（3三）については、全国を下回っており、無解答率も10%を上回った。「満」は小学校4年、「足」は小学校1年の配当漢字である。
- 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する設問（3四）については、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することについて課題が見られた。この設問の無解答率も10%を上回った。

【改善のための方策】

- 「読むこと」の「文章と図などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」＜精査・解釈＞の指導の充実
 - ・説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げる。
 - ・文章を読んで理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習の際に、生徒一人一人の理解や解釈が適切であるかを検討する場面を設定し、必要に応じて修正したりすることができるように指導する。
- 「書くこと」の「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみること」＜考えの形成 記述＞の指導の充実
 - ・自分の考えがよく伝わる文章を書くには、表現の効果を考えて描写するなど、工夫して書くことが必要である。
 - ・自分が伝えたいことを明確にし、効果を考えながら工夫して記述したり、伝えたいことが読み手に伝わっているかを確かめて推敲したりすることができるように指導する。

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	1年 図形	H26A4(3)
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	1年 データの活用	H24A15(2) H28A12(1) H318(1)

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	2年 データの活用	H20A15(2) H21A13(2) H23A13(1) H24A14(2) H25A15(2) H26A14(2) H28A13(2) H29A15(2) H30A15(2) H315
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	2年 図形	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2年 数と式	H23A 2 (2) R2 2
6 (2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2年 数と式	H23B 2 (3) H27B 2 (2) H30B 2 (2) H31 9 (2) R3 6 (2) R5 6 (2)
7 (2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年 データの活用	R5 7 (2)
8 (2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2年 関数	H30B 3 (3) R2 6 (2)
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2年 図形	H29B 4 (1)
9 (2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正し	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことがで	2年 図形	

	いものを選ぶ	きるかどうかをみる		
--	--------	-----------	--	--

【本市の傾向・課題】

- 全体および各領域の正答率は、全国・県とほぼ同等の結果となり、同様の傾向が見られた。「数と式」では、連続する2つの偶数の表し方、事柄が成り立つ理由の説明を問う設問で、いずれも正答率が低かった。文字式の表し方や式変形、式が表す意味の読み取りに課題があると思われる。
- 「図形」では、三角形の合同を基にした図形の証明とその発展に関する設問で正答率が低く、証明に対する苦手意識が顕著に表れていた。「関数」では、事象に即してグラフの切片や傾き・交点の意味を問う設問の正答率は高かったが、問題解決の方法を数学的に説明する設問の正答率が低く、設問によって正答率に大きな差が生じた。「データの活用」では、最頻値を求める設問の正答率は全国・県を上回った一方、確率を求める設問の正答率は全国・県を下回り、確率についてより確かな理解が必要であることが示された。
- 記述式の設問の無解答率は全国・県と同様に高かったが、事柄が成り立つ理由や予想される事柄を数学的な表現を用いて説明する設問の無解答率については、全国・県に比べて高く、苦手意識が強い傾向にあるといえる。
- 全16問のうち6問の正答率が、全国・県と同様に低く、そのうちの4問が記述式の設問であった。基礎的・基本的な知識・技能はある程度身につけているものの、解決の方法や判断の理由などを数学的に表現することに課題があるといえる。

【改善のための方策】

○統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する学習指導の充実

- ・数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え、説明することが大切である。与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数で計算する活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現する活動を取り入れることが考えられる。
- ・また、解決の結果を振り返り、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することも大切である。本設問を使って授業を行う際には、結論に含まれる「2倍」がどのように変わるのかを、具体的な数で計算して予想する活動や、文字を用いて明らかにする場面を設定することが考えられる。

○図形に着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす学習指導の充実

- ・証明を書くことだけでなく、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるように指導することが大切である。1人1台端末等を活用して、それぞれの生徒が図形を操作して成り立つと予想される図形の性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。
- ・条件を保ったまま、図形の形を変えながら観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を見いだすことができるように指導することも大切である。問題で与えられた最初の条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、辺や角について考察する活動を取り入れることが考えられる。

○資料の傾向を読み取って、数学的な表現を用いながら考察し判断する学習指導の充実

- ・日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することができるように指導することが大切である。その際、判断の理由を、箱の位置や四分位数などを根拠にして説明し、結論が妥当かななどを考察したり、話し合ったりする活動を取り入れることが考えられる。

(3) 無解答率について

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無回答率が高かった設問数			
小学校	R 5 年度	国語	算数
		11 問／14 問中	1 問／16 問中
	R 6 年度	国語	算数
		5 問／14 問中	3 問／16 問中
中学校	R 5 年度	国語	数学
		5 問／15 問中	6 問／15 問中
	R 6 年度	国語	数学
		7 問／15 問中	10 問／16 問中

○昨年度との比較の視点から

- ・中学校数学で無解答率が全国平均を上回った設問数が昨年度は 4 0 %であったが、今年度はさらに 6 3 %と大幅に増加し、全教科の中でも最も多かった。
- ・小学校国語では、無解答率が全国平均を上回った設問数が昨年度の 7 9 %から 3 6 %と大きく減少したが、それ以外の小学校算数、中学校国語・数学は、無解答率が全国平均を上回った設問数が増加した。

○全国との比較の視点から

- ・小学校は、国語、算数合わせて無解答率が全国平均を上回った設問は 8 問あったが、そのうち 6 問が全国と 1. 0 ポイント未満での差であった。最大で 3. 7 ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。
- ・中学校は、国語、数学合せて無解答率が全国平均を上回った設問は 1 7 問あったが、そのうち 9 問で全国と 1. 0 ポイント未満での差であった。最大で 5. 1 ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、国語において無解答率が 1 0 %を超えている設問が 2 問であった。2 問中 1 問が記述式、1 問が選択式であった。記述式においては、「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題、選択式においては、「読書記録の空欄に入る内容として適切なものを選択する」問題であった。
- ・中学校では、無解答率が 1 0 %を超えている設問は、国語においては 3 問で、数学においては 6 問であった。国語においては、「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」、「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」記述式の問題と、漢字を書く問題であった。数学においては、6 問全て記述式の問題で、整数の和について説明する問題やグラフを用いて説明する問題、三角形の合同を証明する問題などであった。

【改善のための方策】

- ・主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点にたち、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書いたり、説明したり、発表したりすること、また友だちと意見を交流し、自分の考えを深めていくような活動を設定していくことが大切である。

3 質問調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問調査の特徴

① 小学校【児童質問調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	4.1
6	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く） 1時間以上で比較	5.1
7	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	3.7
28-1	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	3.4
46	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか	3.6
61	英語の勉強は好きですか	3.6

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
16	学校に行くのは楽しいと思いますか	-3.7
26	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択） 4.学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	-3.2
26	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択） 9.友達と遊んでいる	-5.4
国 2	解答時間は十分でしたか（国語）	-9.7
算 1	解答時間は十分でしたか（算数）	-4.3

② 中学校【生徒質問調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
27	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 週3回以上で比較	17.0
28-1	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	4.4
28-2	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	3.2
28-3	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（3）楽しみながら学習を進めることができる	3.2

28-4	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	3.7
28-5	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	4.4
28-6	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	5.0
28-7	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	3.0
29	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	8.0
39	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	4.7
40	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	4.6
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	3.3
58	理科の勉強は好きですか	5.3
60	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	3.0
63	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	3.8

■【全国平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
26	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択) 2.家で勉強や読書をしている	-3.4
26	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択) 4.学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	-3.8
26	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択) 9.友達と遊んでいる	-3.5
51	数学の勉強は大切だと思いますか	-3.8
52	数学の授業の内容はよく分かりますか	-6.6
53	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-6.6
55	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	-6.0
56	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	-3.4
64	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	-4.0
国2	解答時間は十分でしたか(国語)	-3.5
数2	解答時間は十分でしたか(数学)	-4.1

③児童生徒質問調査について

今年度、児童生徒質問調査の設問数は、小学校 73、中学校 75 であった（昨年度は、小学校 63、中学校 80）。1 日当たり ICT 機器やテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンの使用時間等に関する設問、放課後や週末にすることに関する設問、学習の中で ICT 機器を活用することについての効果に関する設問、また理科の学習に関する設問等が新たに付け加わっている。全国平均と比べて 3 ポイント以上、上回る設問が、小学校では 6 問、中学校で 15 問あった。反対に 3 ポイント以上下回る設問が、小学校では 5 問、中学校で 11 問あった。小学校・中学校とも約 7 割以上の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」について、全国平均を上回っており、規則正しい生活を送っていることがうかがえる。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」について、全国平均を約 4 ポイント上回っていることから、節度を持って使おうとしていることがうかがえる。しかし、「普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」については、2 時間以上している割合が全国平均を 2.1 ポイント上回り、また「普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）」では、1 時間以上使用している割合が全国平均を 5.1 ポイントも上回ったことから、甲府市の児童の学習以外での携帯電話・スマートフォンやコンピュータの 1 日の使用時間が全国平均より長いことが明らかとなった。その結果、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、1 時間以上学習している割合が全国平均を 1.6 ポイント下回り、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2 時間以上学習している割合は全国平均を 1.9 ポイント下回った。このことから、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの学習以外での使用時間の長さと、家庭学習の時間の確保が課題である。
- 「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」については、「家で勉強や読書をしている」「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」「友達と遊んでいる」割合が全国を 2.8～5.4 ポイント下回った。「習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている」「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」割合が全国平均を上回っている。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答が 8～9 割を超え、全国平均も 0.6～1.4 ポイント上回ったことから、自己有用感を感じている児童が多いことが分かる。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」についても、肯定的な回答をした児童が 9 割以上おり、全国平均を 1.4 ポイント上回ったことから、幸福感を感じている児童が多いこともうかがえる。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、全国平均を 3.7 ポイント下回った。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足してい

ますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」についても、全国平均を若干下回った。互いを認め合い、子ども達が安心して生活できるような環境づくりを行っていくことが必要である。

- 「新聞を読んでいますか」については「週に1～3回程度読んでいる」で比較した場合、全国平均を下回った。紙に書かれた文字を読む機会が減ってきていることがうかがえる。
- 「5年生までに受けた授業での、PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度」また「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することのよさ」に関する設問については、すべての項目で0.8～3.4ポイント全国平均を上回った。特に「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」の項目では3.4ポイント上回り、個別最適な学びの実現に向け、ICT機器が活用されていることが分かる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」について、全国平均を上回った。学級の課題について話し合われたことを、学級生活をよりよくするために意識して取り組もうとする姿勢がうかがえる。
- 「国語の勉強は好きですか」など、国語の学習についての設問は全ての項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。特に「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」については、全国平均を3.6ポイント上回っていた。
- 「英語の勉強は好きですか」については、肯定的な回答が全国平均を3.6ポイント上回った。また、「英語の勉強は大切だと思いますか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」という英語の学習に関する項目で全国平均を上回った。
- 「解答時間は十分でしたか」については、国語も算数も肯定的な回答が全国平均を下回った。特に国語では9.7ポイントと大きく下回った。問題文を時間内に的確に理解する「読解力」が課題である。本の所有数、新聞を読むことに関する設問について全国平均を下回ったことから、文章を読む機会が減っていることと関連していることが考えられる。

<中学校>

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」について、肯定的な回答をした生徒が8割程度おり、また、全国平均を上回っており、規則正しく健康的な生活をしようと心がけていることがうかがえる。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、肯定的な回答が全国平均を2.6ポイント上回り、節度を持って使用していることがうかがえる。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」については、肯定的な回答が8割を超え、全国平均を2.6ポイント上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても、肯定的な回答が9割を超え、全国平均を2ポイント上回った。先生など他者に認められることにより、自己肯定感を高めている生徒が多いことが分かる。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上で比較した場合全国平均を1.9ポイント下回った。ま

た、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、3時間以上で比較した場合は全国と同等であったが、2時間以上で比較した場合は全国平均を1.0ポイント下回った。平日や週末における家庭学習の時間の確保については、課題である。

- 「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）」については、「家で勉強や読書をしている」「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」「友達と遊んでいる」の割合が全国平均を3.4～3.8ポイント下回った。「習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている」「スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている」「家族と過ごしている」割合が全国平均よりも上回っており、また、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」生徒が8割おり、学校以外の時間は、習い事に通ったり、家で家族と過ごしたり、テレビやゲーム、SNSを楽しんでいる生徒が多いことが分かる。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、「週3回以上」で比較したとき、全国平均より1.7ポイントと、大きく上回った。
「1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについてのよさ」についても、肯定的な回答が全ての項目で全国平均を3～5ポイント上回った。特に「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」では4.4ポイント、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」の項目については、5ポイントと大きく上回った。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」についても肯定的な回答が全国平均を上回ったことから、自分の考えを伝えたり、友達と考えを共有したりすることで、自分の考えを再構築することができるなど、ICT機器を活用することで、対話的な学習の充実につながっていることが分かる。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、肯定的な回答が全国平均を8.0ポイントと、大きく上回った。「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」についても、肯定的な回答が全国平均を上回っており、各教科の授業や総合的な学習の時間での探究的な学習活動の積み重ねが、論理的な表現力の育成につながっていると考えられる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」については、肯定的な回答が全国平均を3.3～4.7ポイント上回った。学級活動や道徳科において、話し合い活動を丁寧に行っていることで、生徒達に深く考えさせていることがうかがえる。
- 国語の学習に関する設問では、「国語の勉強は好きですか」について、肯定的な回答が全国平均を若干下回ったものの、それ以外の項目では肯定的な回答が全国平均を上回った。「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」など、言語活動に関する設問において肯定的な回答が2ポイント以上上回っており、国語における言語活動が、その

他の場面における話し合い活動や表現活動にもつながっていることが分かる。

- 数学の学習に関する設問については、全ての設問において肯定的な回答が全国平均を下回った。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、肯定的な回答が全国平均を6.6ポイントと大きく下回り、また、「数学の勉強は大切だと思いますか」についても3.8ポイント下回ったことから、数学の学習の意義を十分に感じていない生徒が多いことがうかがえる。「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」についても、肯定的な回答が全国平均を下回っていることから、数学に苦手意識を持っており、粘り強く取り組むことを諦めてしまっている生徒が多いことが考えられる。「数学の授業の内容はよく分かりますか」についても、肯定的な回答が全国平均を6.6ポイント下回っており、数学に興味・関心を持たせるような工夫が求められている。

- 理科の学習については、「理科の勉強は好きですか」について、肯定的な回答が5.3ポイント全国平均を上回った。「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」についても、肯定的な回答が全国平均を3.0ポイント上回っており、理科に関する事象への問題を見いだしながら、予想をもとに観察や実験を行うことに関心を持って取り組んでいることが分かる。

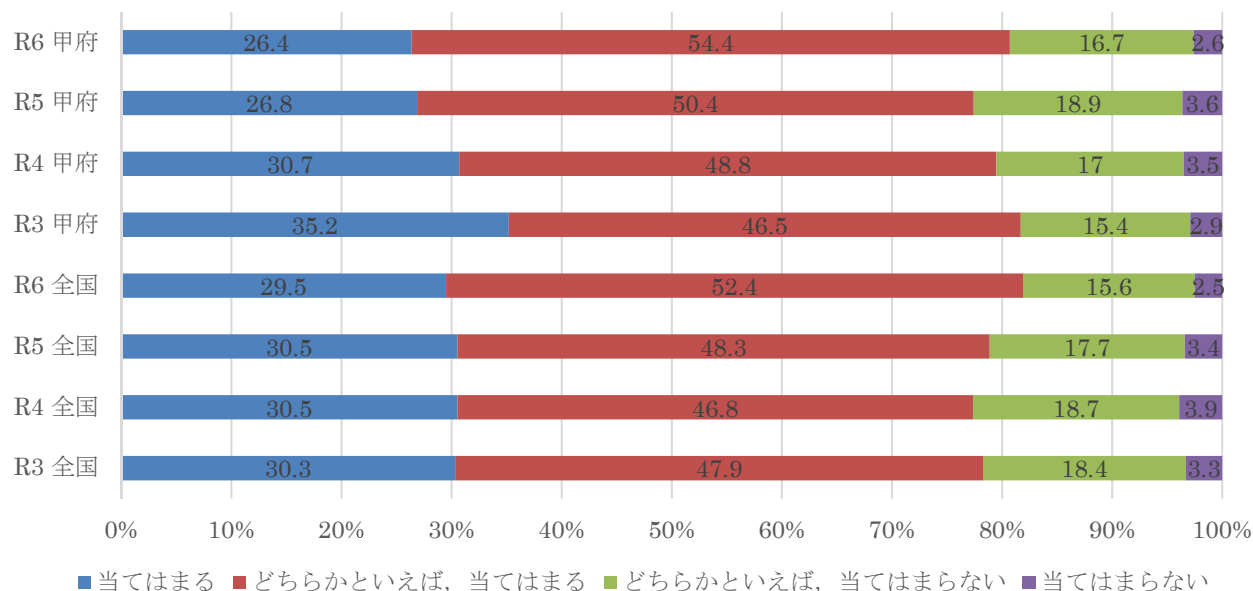
- 英語の学習については、「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答が7割を超え、全国平均を3.8ポイント上回ったことから、即興的に伝え合う言語活動が定着してきたことがうかがえる。しかし、「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」については肯定的な回答が4.0ポイント全国平均を下回った。即興的に伝え合う活動と、まとまった内容を発表する活動をバランスよく行っていくことが大切である。

- 「解答時間は十分でしたか」について、肯定的な回答が、国語も数学も全国平均を下回った。両教科とも、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうとした」については全国平均を下回り、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった」について、全国平均を2ポイント以上、上回った。時間が足りないために、書く問題にじっくり取り組めなかったことがうかがえる。

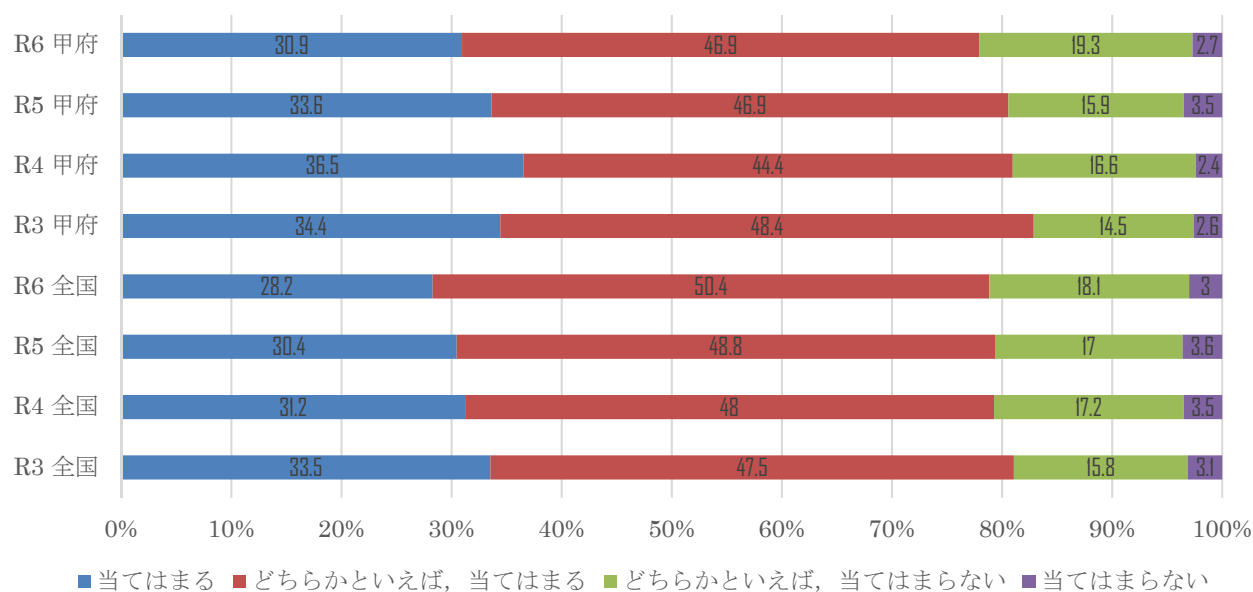
☆児童生徒質問調査のうち教育活動（「主体的・対話的で深い学び」）に関わる資料①

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

小学校

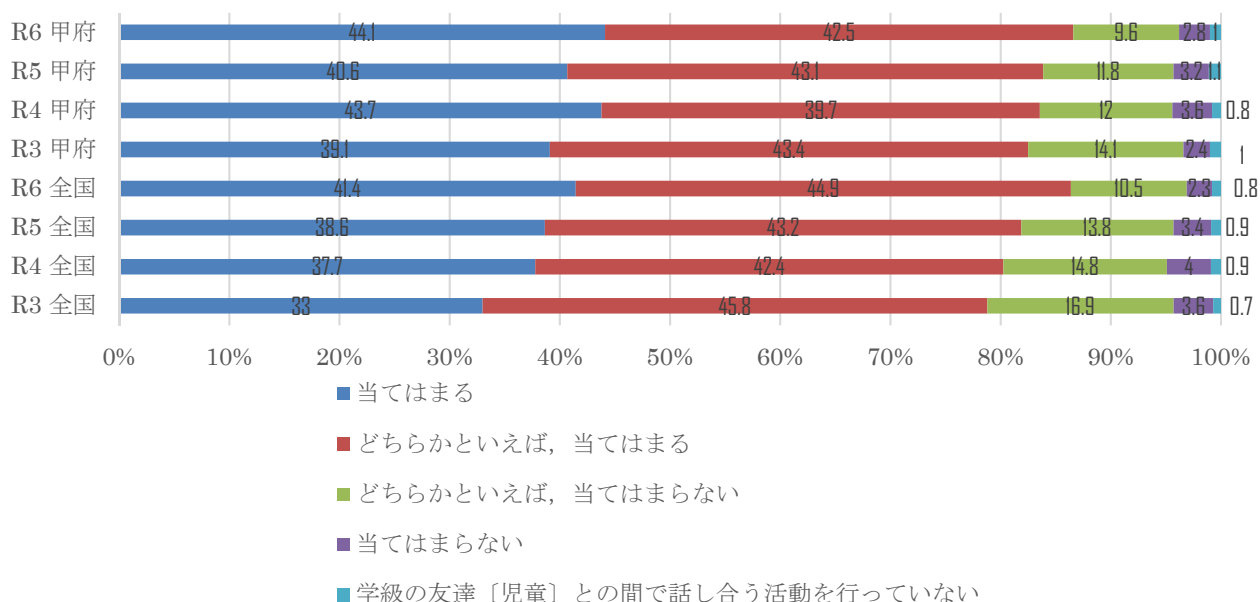


中学校

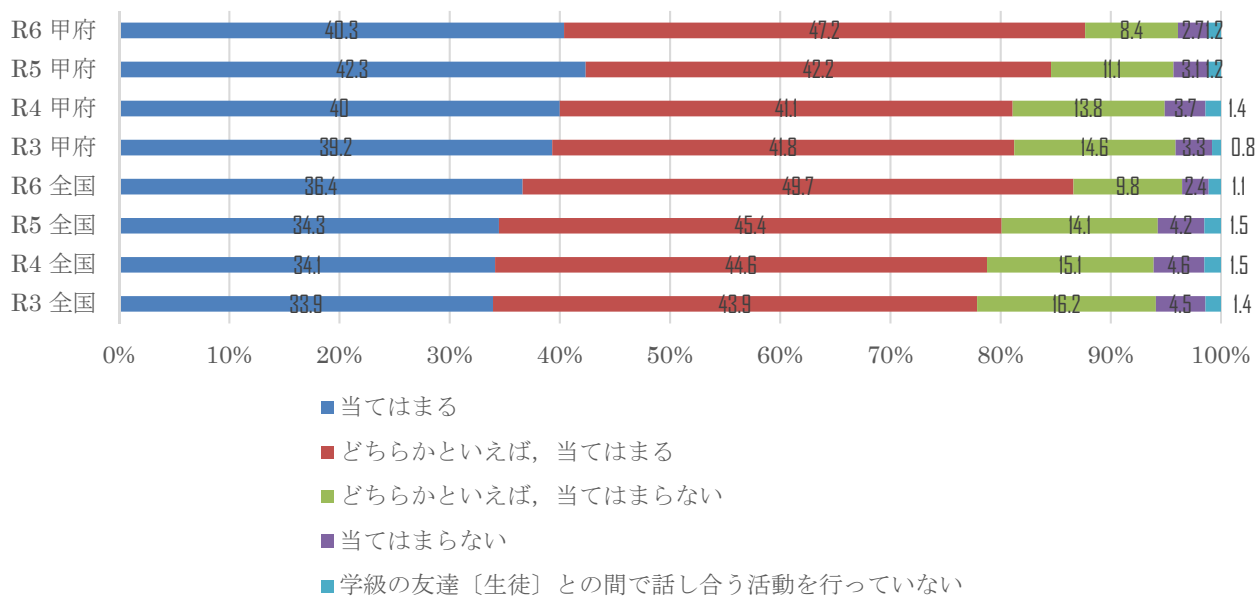


学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

小学校

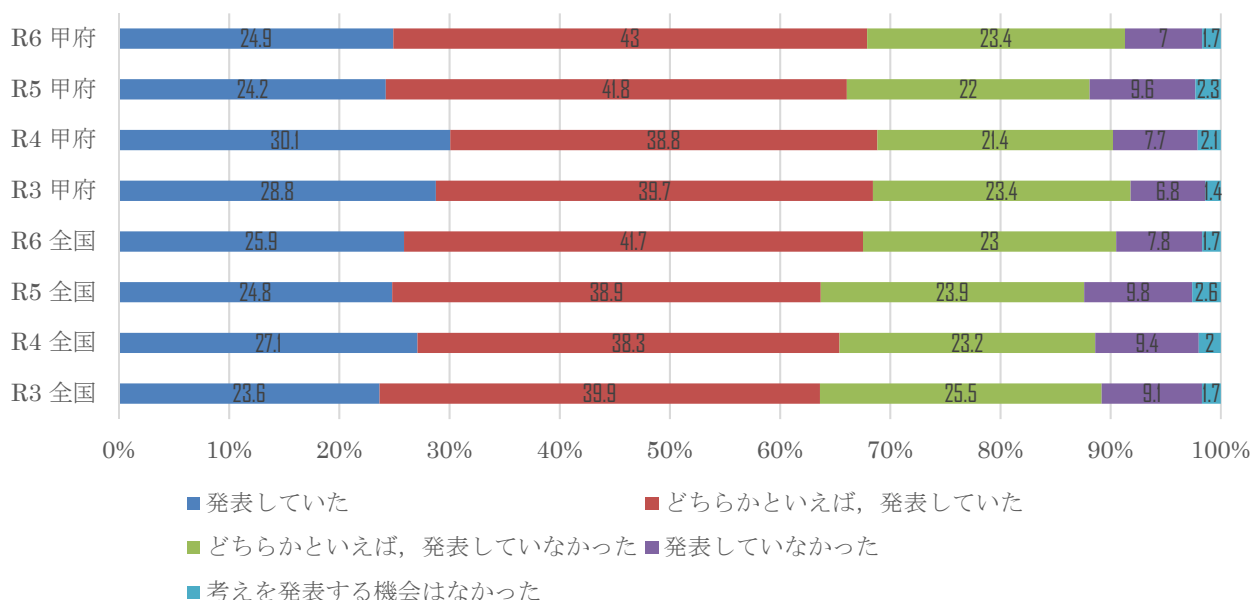


中学校

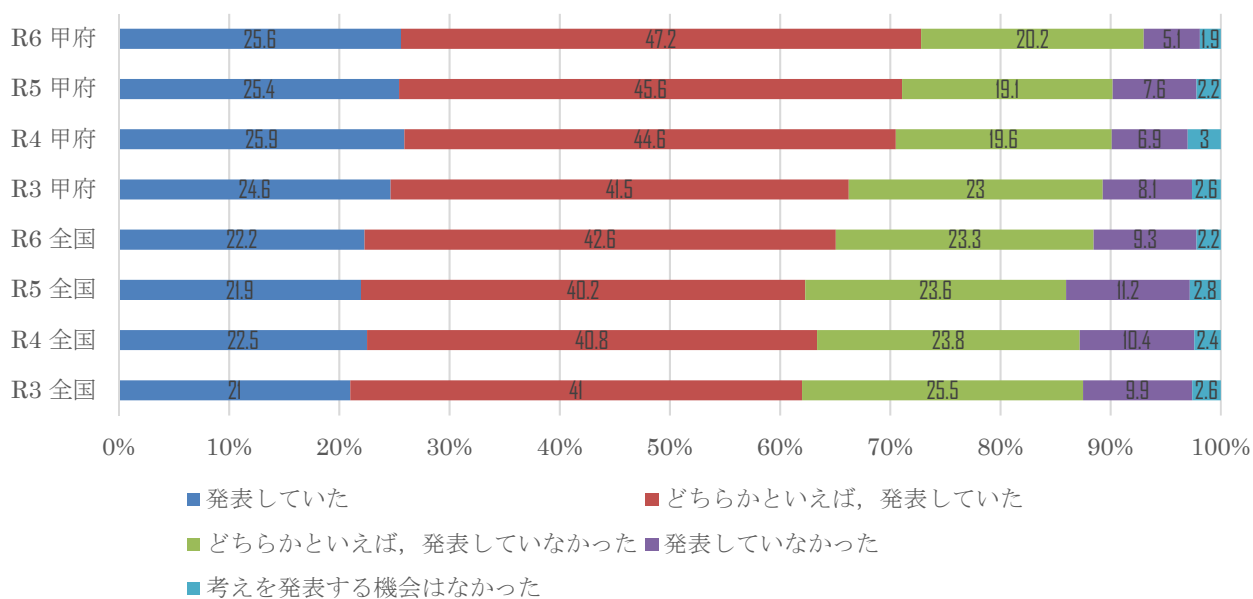


授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学校



中学校

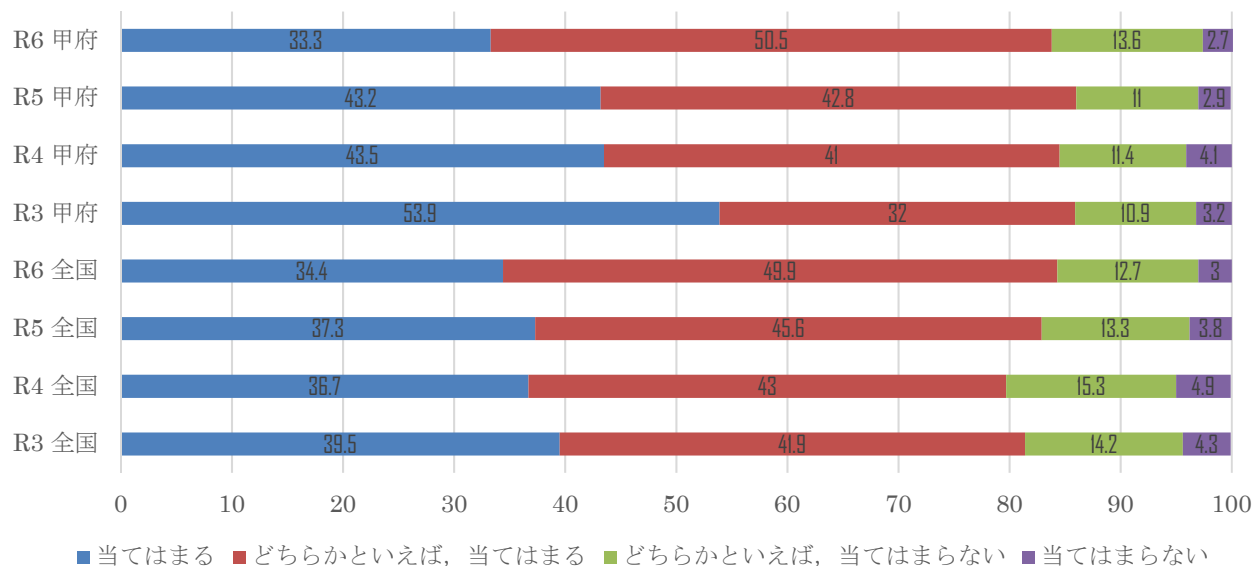


☆児童生徒質問調査のうち教育活動（個別最適な学び）に関わる資料②

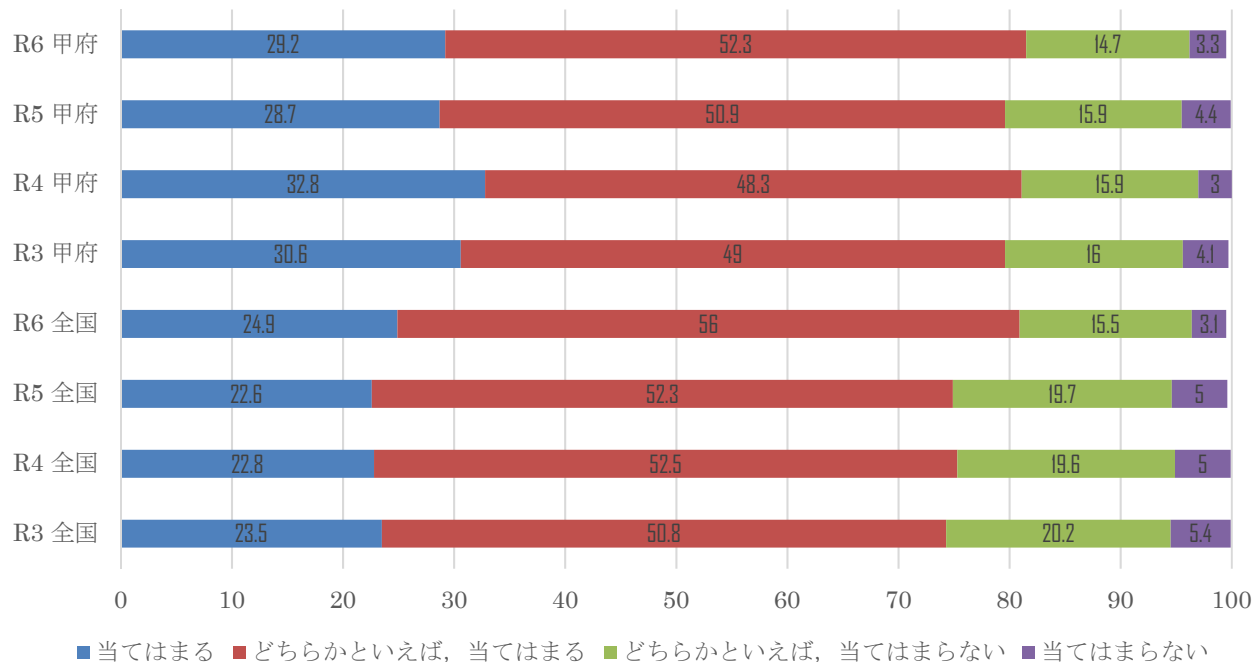
5年生まで【1、2年生のとき】に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

※【 】内は中学校の質問

小学校



中学校

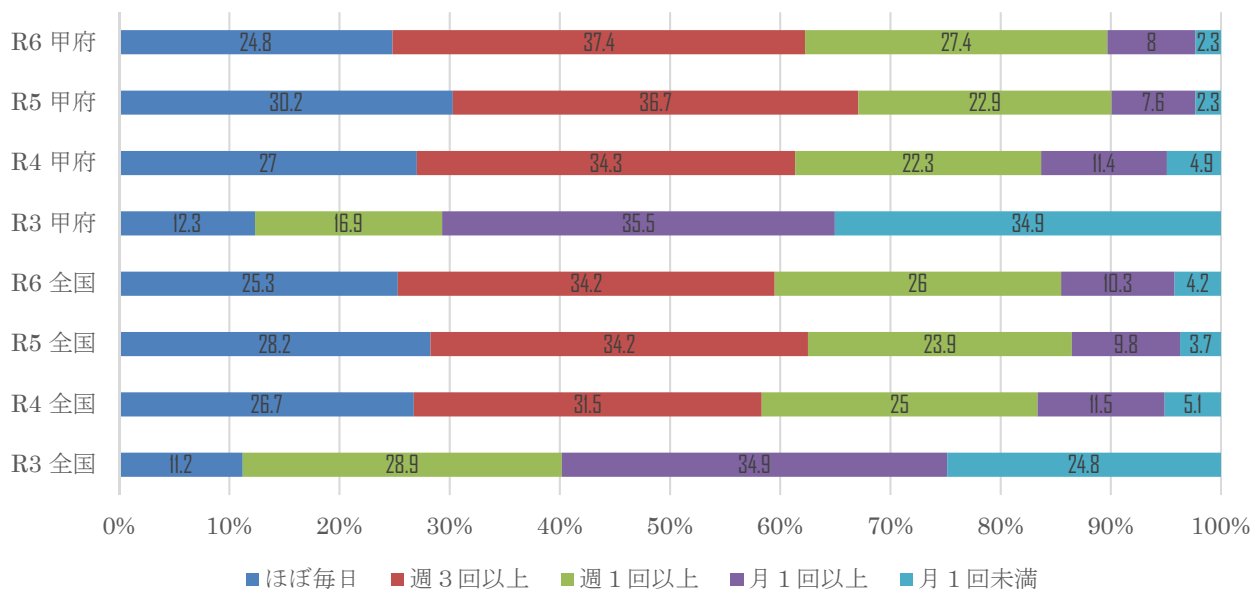


☆児童生徒質問調査のうち「ICT」に関わる資料

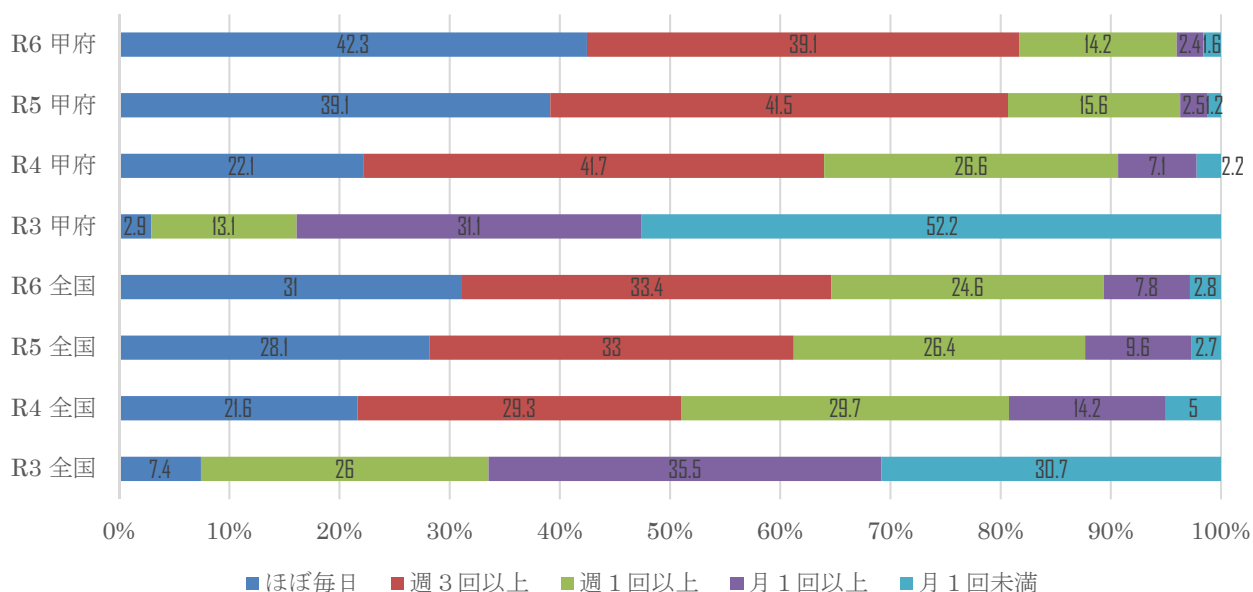
5年生まで【1、2年生】に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

※R3は、「週3回以上」の選択肢はなかったため、その回答をした児童生徒はいない

小学校



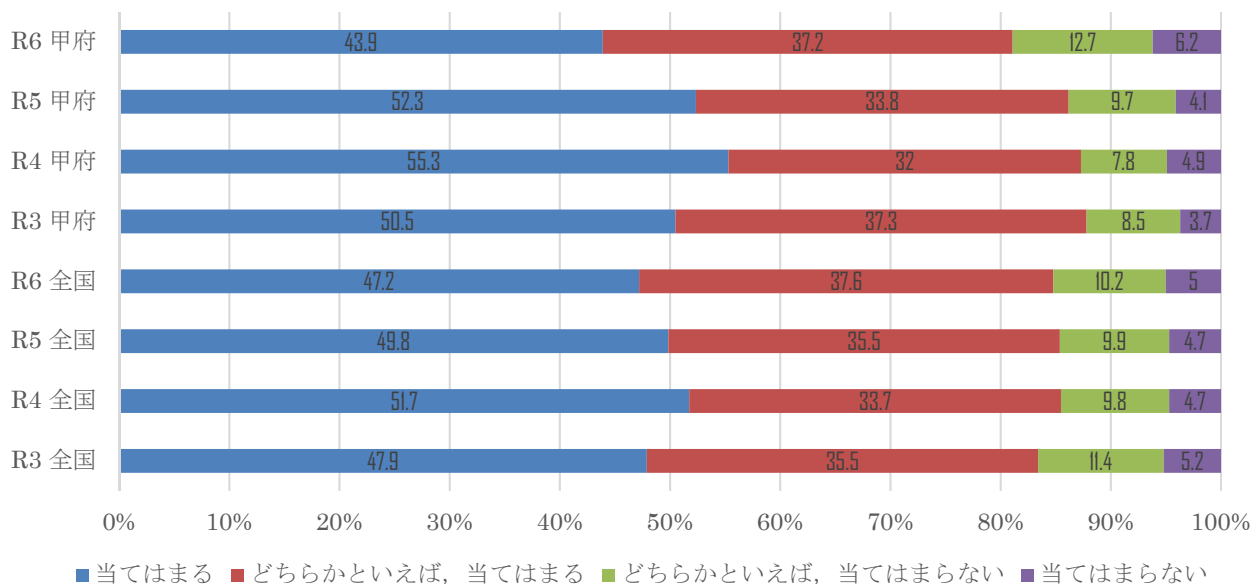
中学校



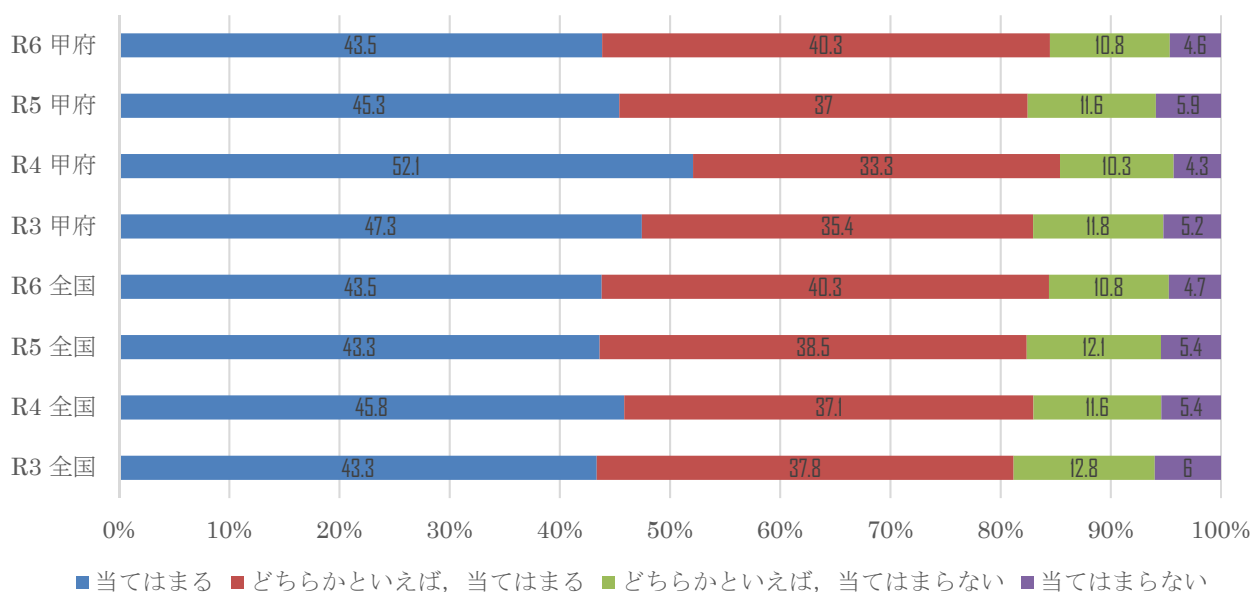
☆児童生徒質問調査のうち「その他」の資料

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校

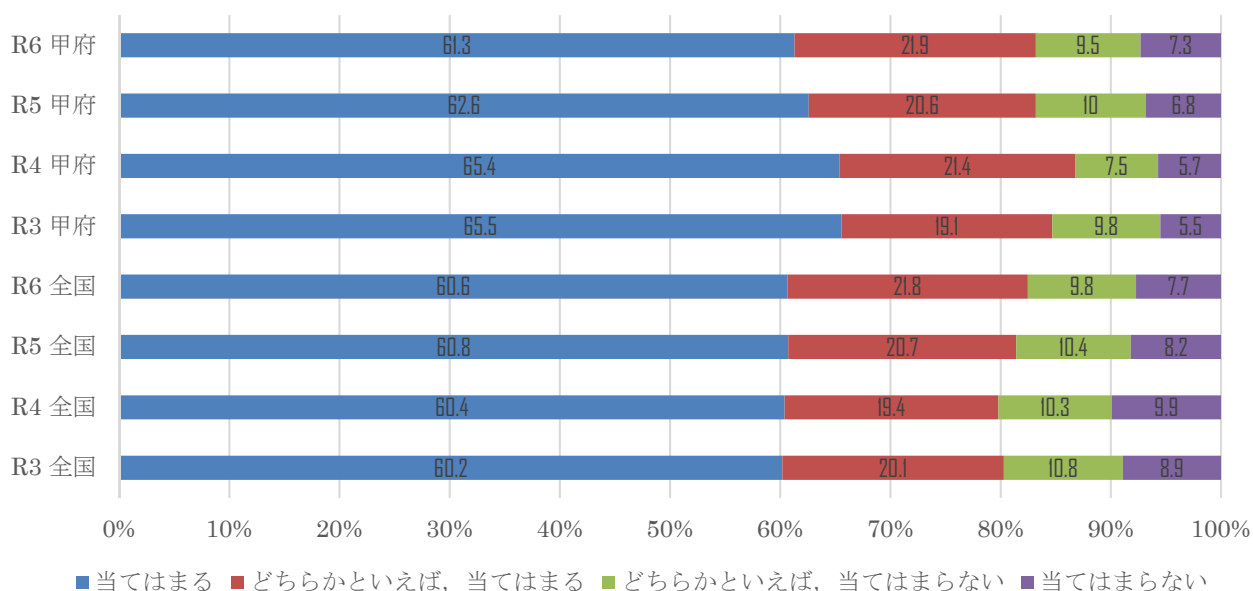


中学校

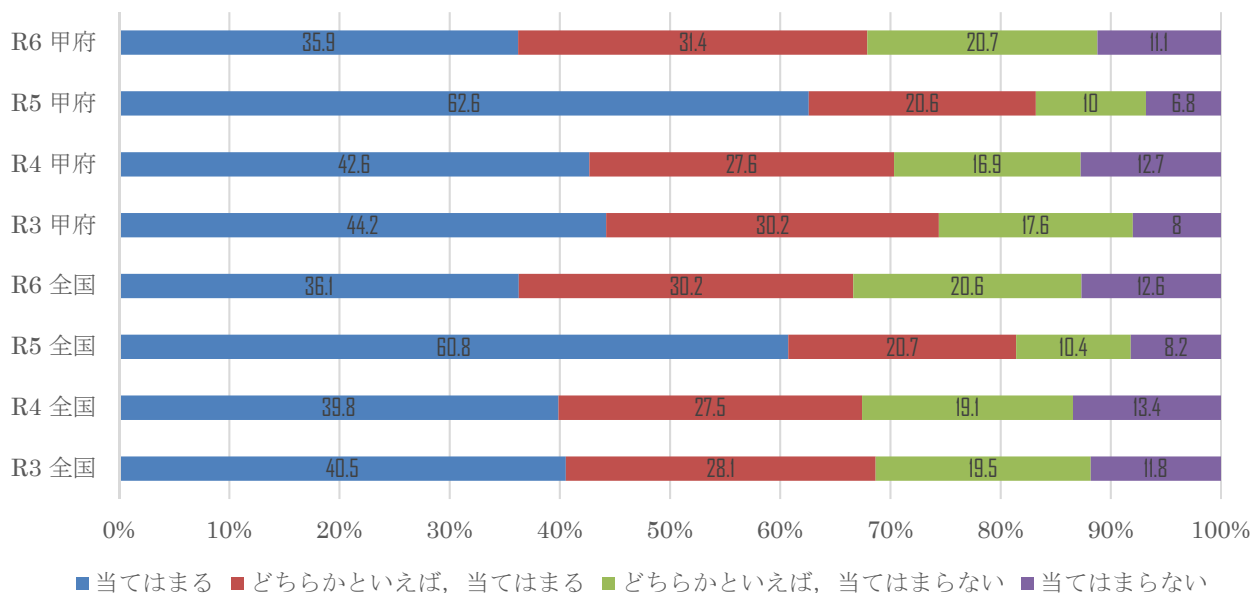


将来の夢や目標を持っていますか

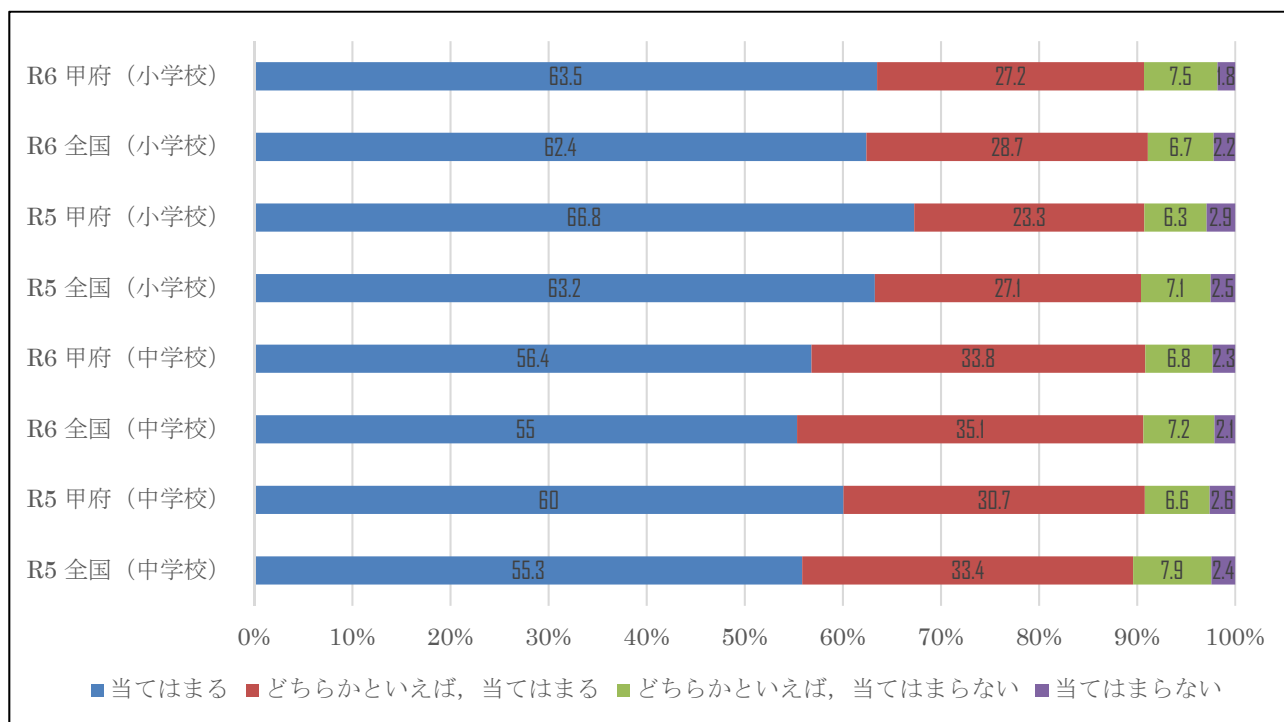
小学校



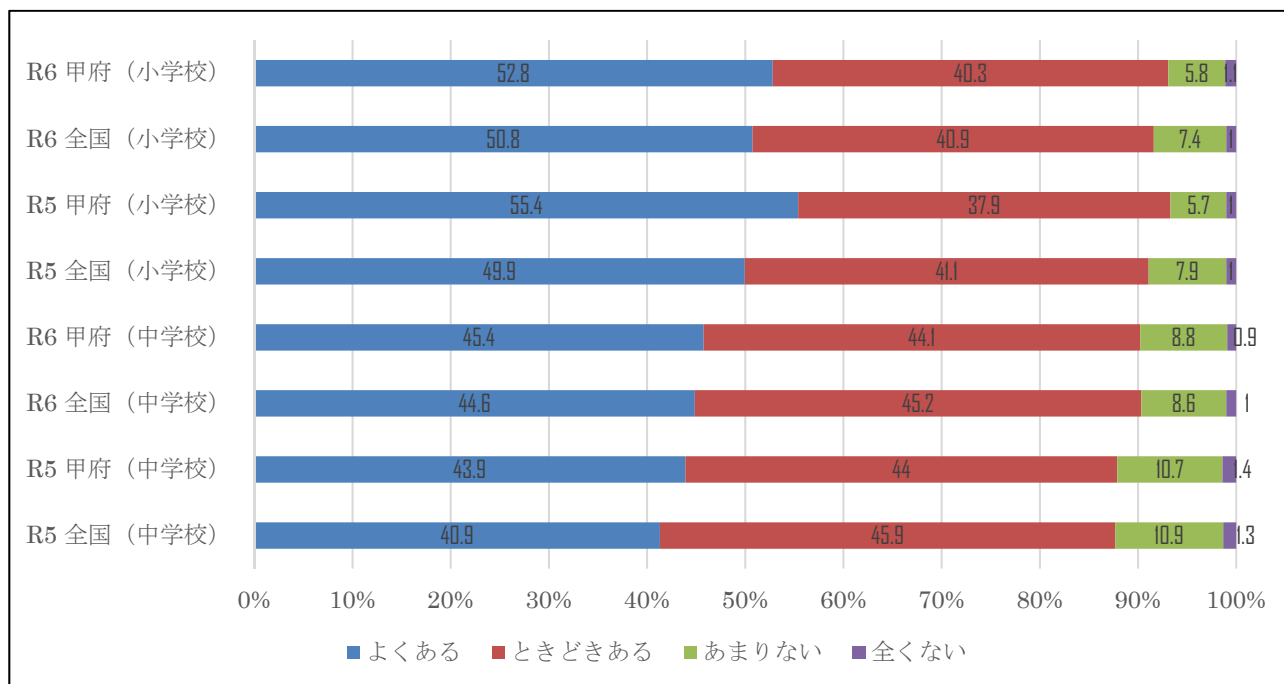
中学校



友達関係に満足していますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



(2) 学校質問調査の特徴

(全国平均：全国平均との比較)

△スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童（生徒）が相談したい時に相談できる体制となっていますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (90.6% : +9.4)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (95.0% : +5.0)

△言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (90.0% : +10.0)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (85.7% : +14.3)

△児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修をおこなっていますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (88.9% : +11.1)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	91.7 % (88.0% : +3.7)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (94.5% : +5.5)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (94.0% : +6.0)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (91.9% : +8.1)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (90.9% : +9.1)

△調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか

〔小学校〕	「ほぼ毎日」「週3日以上」	<u>100</u> % (93.2% : +6.8)
〔中学校〕	「ほぼ毎日」「週3日以上」	90.9 % (90.8% : +0.1)

△コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	92.0 % (88.9% : +3.1)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	90.9 % (84.1% : +6.8)

△令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）

〔小学校〕	「よく行った」「行った」	<u>100</u> % (89.5% : +10.5)
〔中学校〕	「よく行った」「行った」	<u>100</u> % (83.2% : +16.8)

▼調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>96.0</u> % (88.2% : +7.8)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>63.6</u> % (88.4% : -24.8)

▼調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (95.8% : +4.2)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>81.8</u> % (96.3% : -14.5)

▼児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

〔小学校〕	「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」	<u>20.0</u> % (36.2% : -16.2)
〔中学校〕	「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」	<u>63.7</u> % (45.5% : +18.2)

▼前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>68.0</u> % (64.0% : +4.0)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>54.6</u> % (69.0% : -14.4)

▼調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (96.1% : +2.5)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>72.7</u> % (91.9% : -19.2)

▼調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習について、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

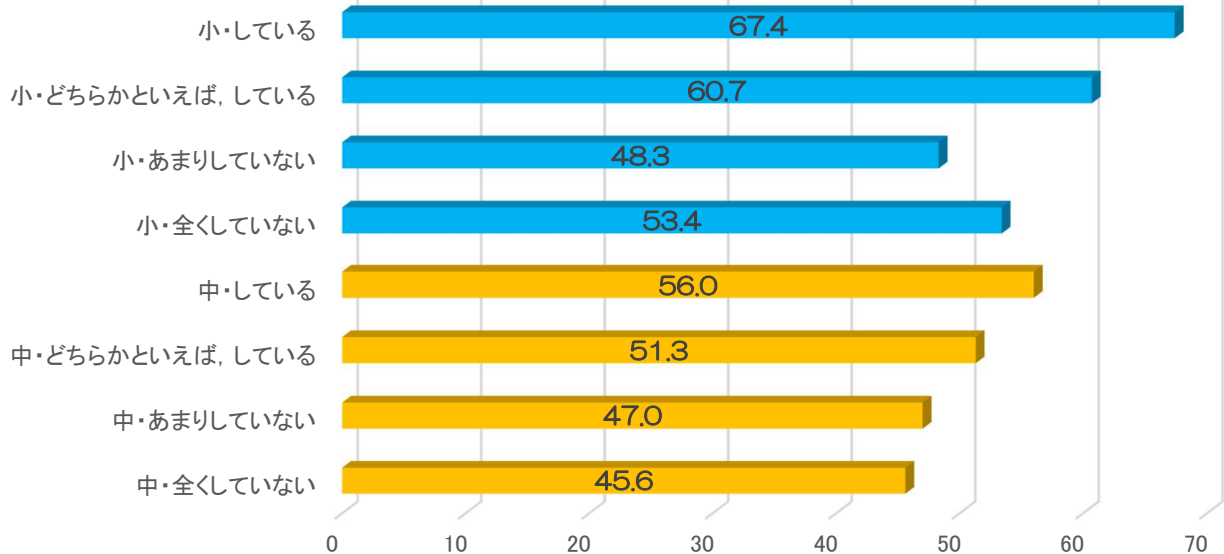
〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>88.0</u> % (89.7% : -1.7)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>63.7</u> % (84.0% : -20.3)

資料 1 平均正答率と質問調査の相関関係

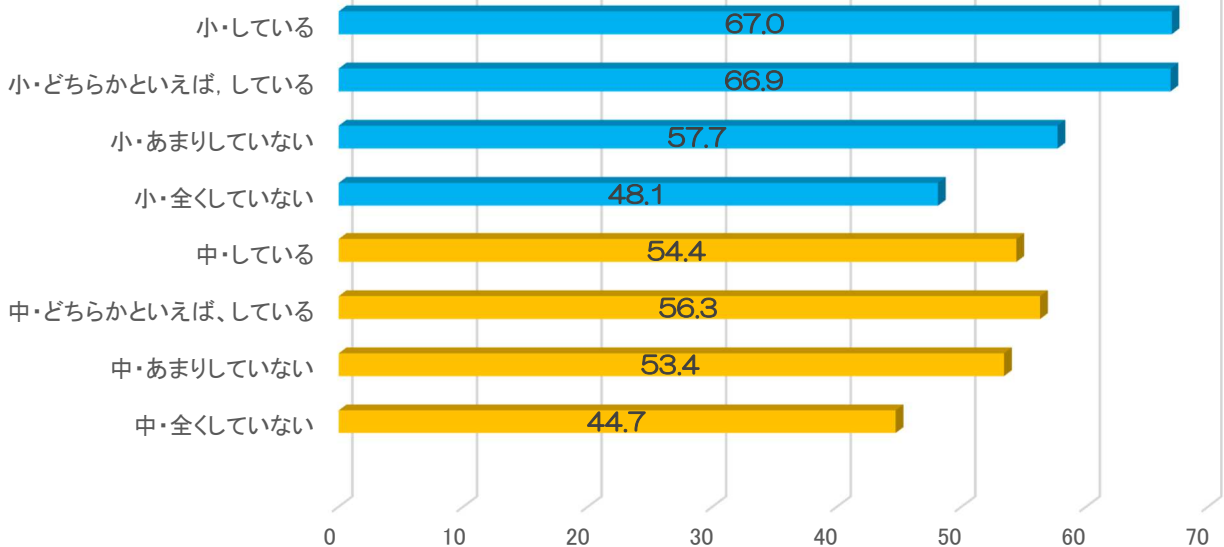
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語・算数・数学の平均正答率の合計を2でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<基本的生活習慣等>

朝食を毎日食べている

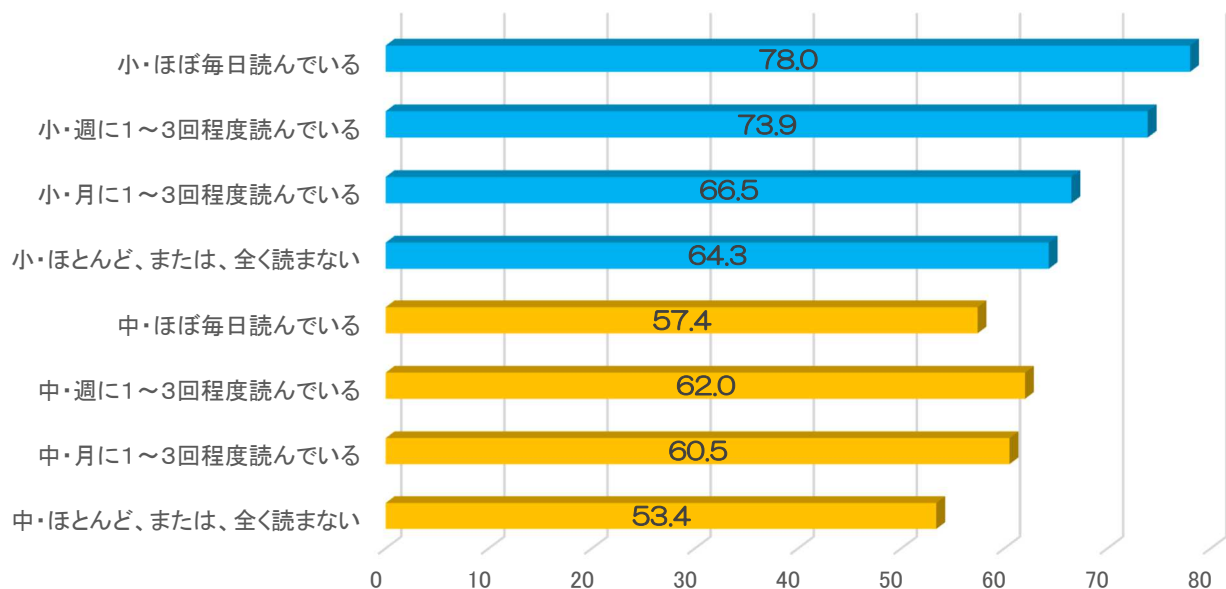


毎日、同じくらいの時刻に起きている

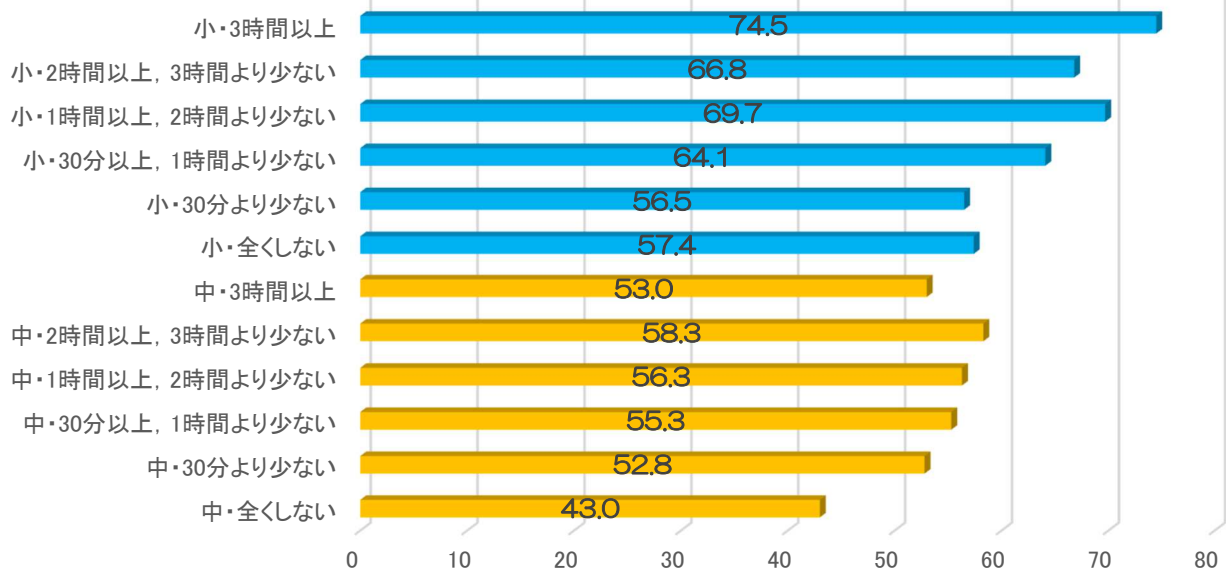


<学習習慣, 学習環境等>

新聞を読んでいますか。

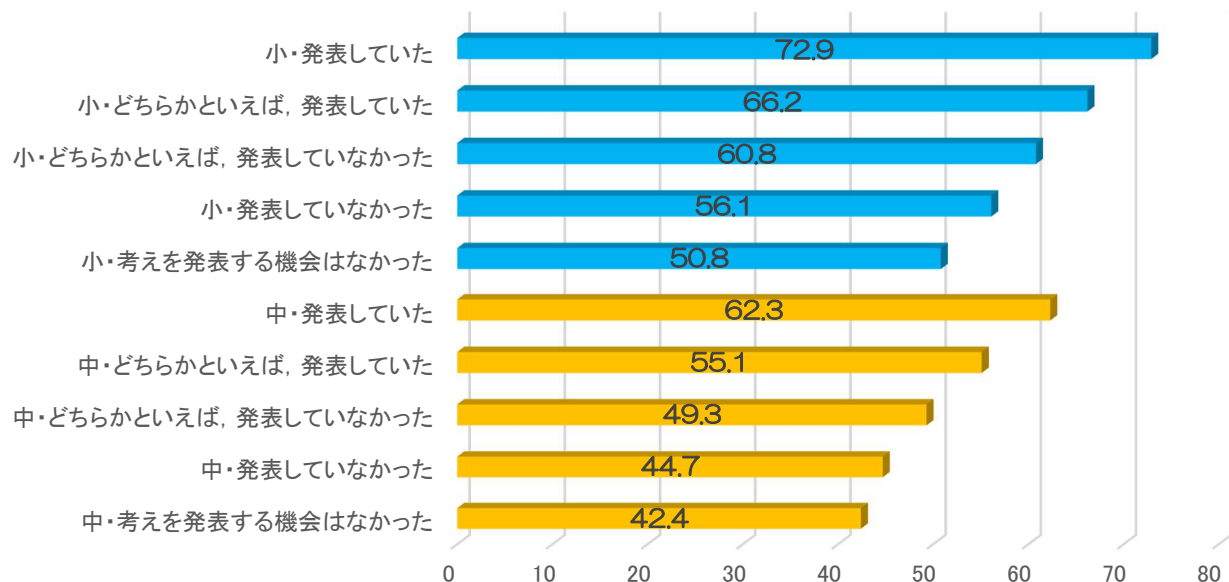


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。

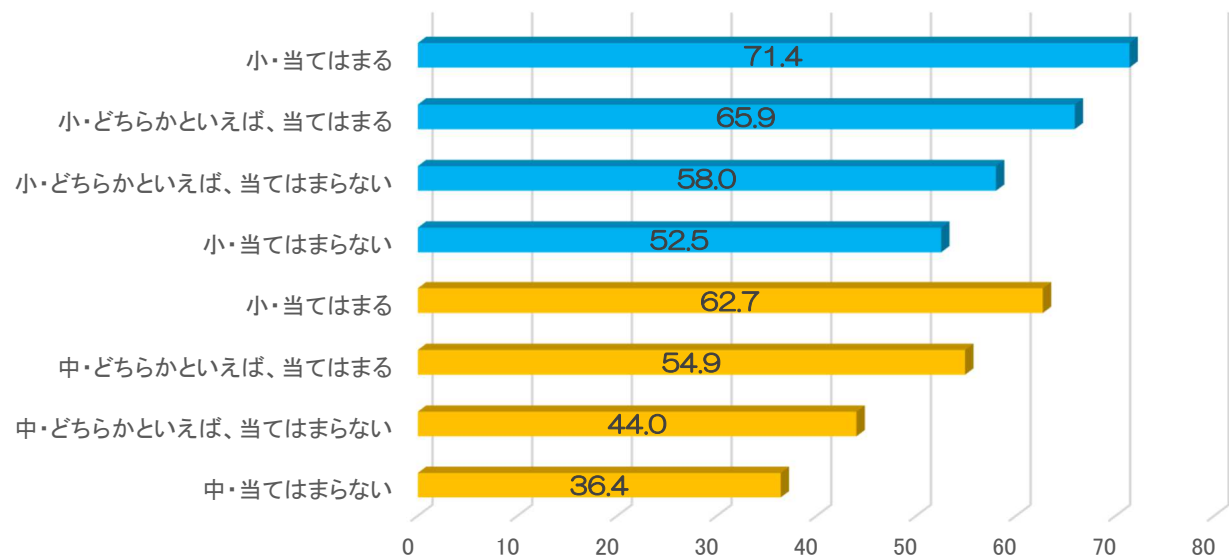


<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善・個別最適な学びに関する取組状況>

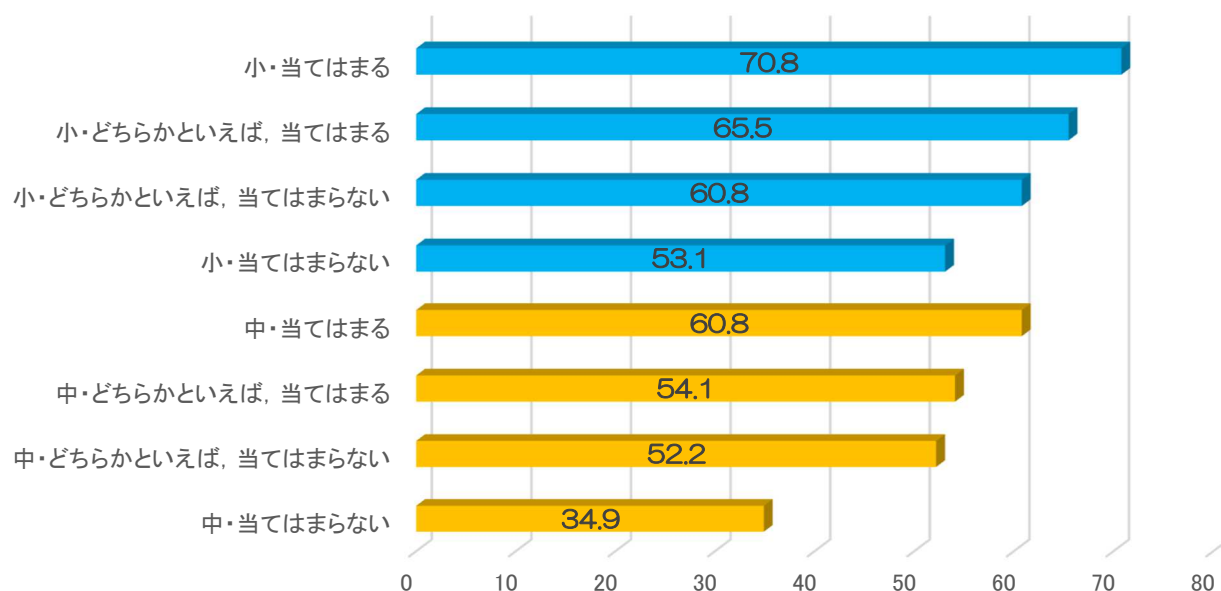
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



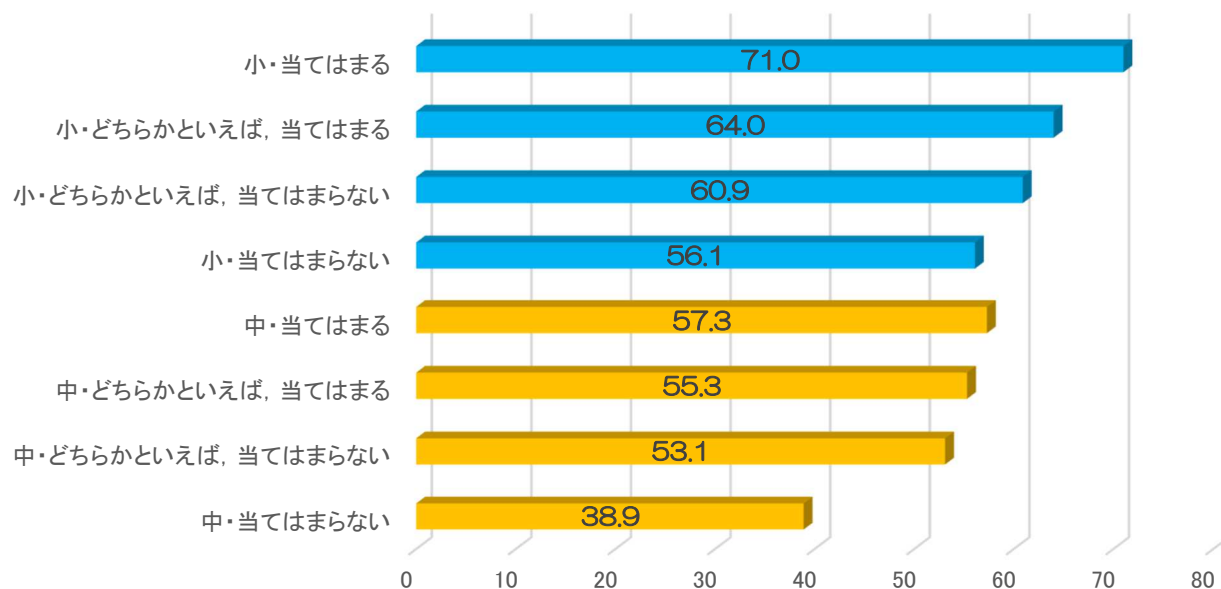
昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



昨年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた

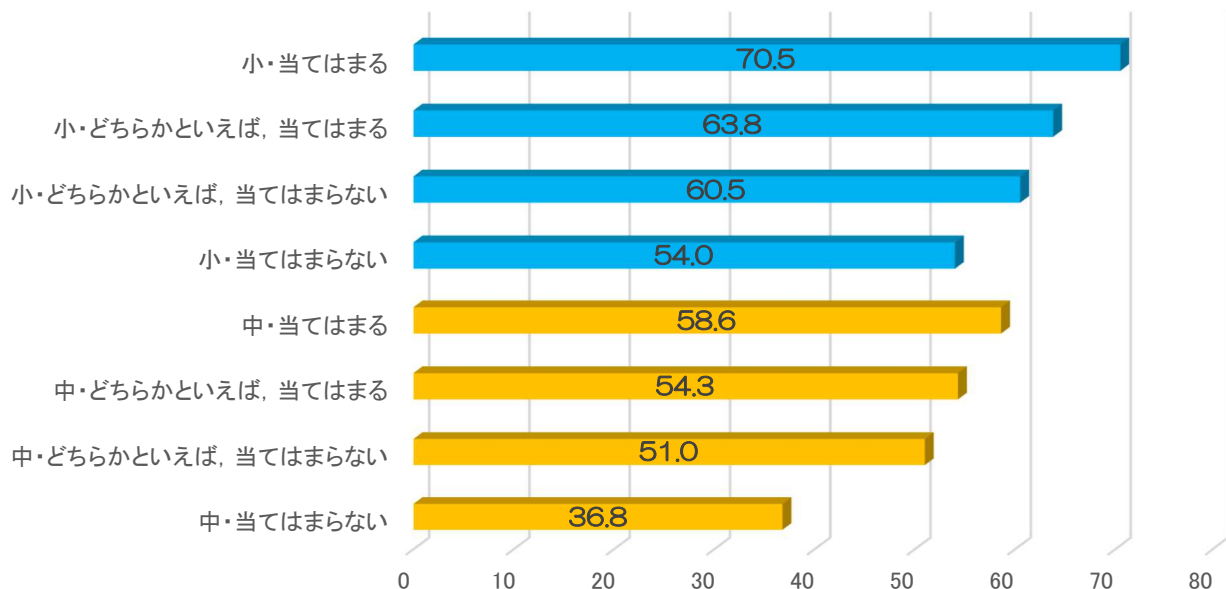


昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

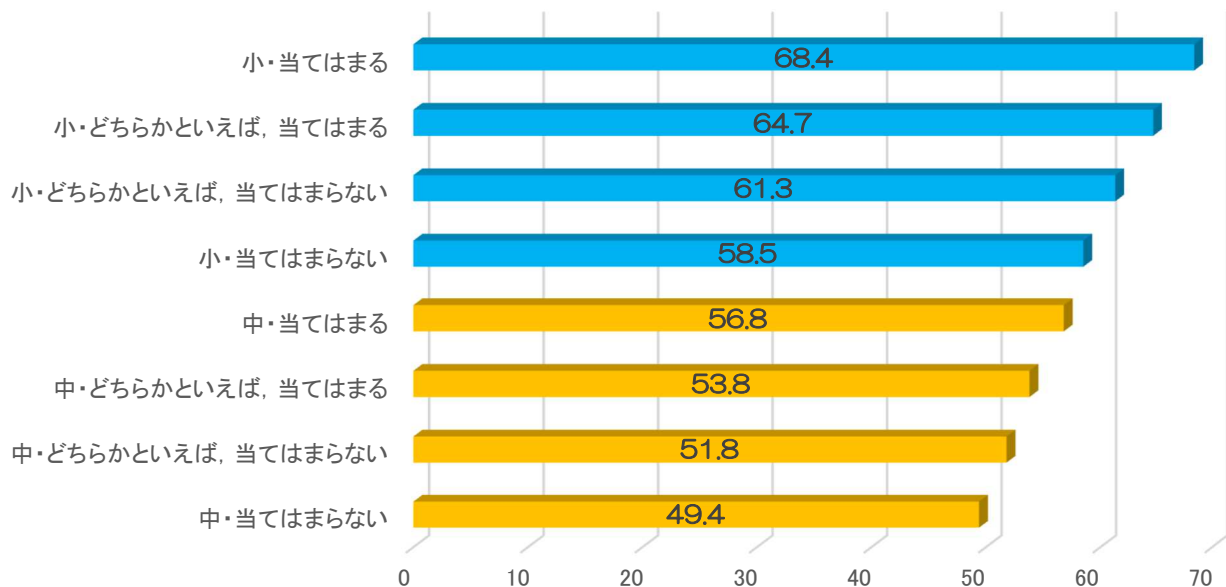


<総合的な学習の時間、学級活動>

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている



資料 2 令和 6 年度甲府市学校教育指導指針に関わって

令和 6 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査、学校質問調査から、甲府市学校教育指導指針との関わりについて分析した。

〈肯定的な回答について〉

*国・県両方を上回っている（または同じ）…◎

*国もしくは県を上回っている（または同じ）…○

*国・県両方を下回っている …△

1 重点項目に関わる設問の回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

将来の夢や目標を持っている 〈児童生徒質問調査 小No.11 中No. 11〉	小学校：国を上回る・県を下回る ○ 中学校：国を上回る・県を下回る ○
各教科の教育目標や内容の相互関連をいかした教育課程の作成 〈児童生徒質問調査 小No.12 中No. 12〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を下回る △
特別支援教育への理解・特性に応じた指導の工夫 〈児童生徒質問調査 小No.67 中No. 71〉	小学校：国・県を下回る △ 中学校：国・県を上回る ◎

②確かな学力の育成

習得・活用・探究の学習過程を見通した指導の工夫 〈学校質問調査 小No.34 中No.34〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を上回る ◎
学級活動における一人一人の児童生徒が意思決定できる指導の工夫 〈学校質問調査 小No.38 中No.38〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を下回る △
特別の教科 道徳における児童生徒が自ら考え、話し合うような指導の工夫 〈学校質問調査 小No.39 中No.39〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を上回る ◎
1人1台端末を活用した授業の頻度（週3回以上） 〈学校質問調査 小No.56 中No.60〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国を上回る・県を下回る △
家庭学習の方法等の児童生徒への教授 〈学校質問調査 小No.71 中No.75〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を下回る △

③「思い遣る心」を育む生徒指導の推進

人が困っているときは、進んで助ける 〈児童生徒質問調査 小No.12 中No. 12〉	小学校：国上回る・県下回る ○ 中学校：国上回る・県下回る ○
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う 〈児童生徒質問調査 小No.13 中No. 13〉	小学校：国を上回る・県と同じ ◎ 中学校：国・県を上回る ◎
困りごとや不安を学校の大人に相談できる 〈児童生徒質問調査 小No.14 中No. 14〉	小学校：国・県を下回る △ 中学校：国・県を下回る △

人の役に立つ人間になりたい 〈児童生徒質問調査 小No.15 中No. 15〉	小学校：国を上回る・県を下回る ○ 中学校：国・県を下回る △
自分と違う意見について考えるのが楽しい 〈児童生徒質問調査 小No.17 中No. 17〉	小学校：国・県を下回る △ 中学校：国・県を下回る △

④健康・体力の向上

朝食を毎日食べる 〈児童生徒質問調査 小No.1 中No. 1〉	小学校：国を上回る・県を下回る ○ 中学校：国・県を上回る ◎
毎日、同じくらいの時刻に寝ている 〈児童生徒質問調査 小No.2 中No. 2〉	小学校：国を上回る・県を下回る ○ 中学校：国を上回る・県を下回る ○
毎日、同じくらいの時刻に起きている 〈児童生徒質問調査 小No.3 中No. 3〉	小学校：国を上回る・県を下回る ○ 中学校：国・県を下回る △

⑤信頼される学校づくりの推進

教育活動への地域等の外部の資源の活用 〈学校質問調査 小No.14 中No.14〉	小学校：国・県を下回る △ 中学校：国・県を下回る △
C Sなどの取組をととした保護者や地域との相互理解 〈学校質問調査 小No.70 中No.74〉	小学校：国・県を上回る ◎ 中学校：国・県を上回る ◎